



皆様、いつもお世話になっております。奄美地方、連日厳しい暑さが続いておりますが、お元気で過ごしておりますか。今回の6月定例会の印象は、一言でいえば「自衛隊配備・誘致についての議論が多かった」ということです。奄美の将来を考える上でとても重要なテーマであり、また市民の皆様の間でも賛否両論あることと思いますが、私自身は昨今のわが国周辺の国際情勢や奄美群島で頻発する自然災害等を考慮すれば、配備・誘致すべきではないかとの立場です。今後も皆様と意見交換をしながら、「外国の脅威や天災からこの

島々をどのように守り、平和で安定した生活を維持していくか」についてお互いに考える機会になればと思っております。クルーズ船の来航や航路・航空路運賃の低減化など、いま奄美に追い風が吹いているのを感じます。その一方で、人口減少など深刻で難しい問題が横たわっていることも事実です。この島に人がとどまり、人の流れが変わるようにするにはどうすればいいのか？大きな変革に向けて、小さくても確かな一歩を積み重ねていきたいと思えます。今後ともご指導のほど、よろしくお願ひ致します。



そうへいの議会トピックス
直近の議会での決定事項や進捗状況についてお知らせします。

1 平成 26 年第 2 回定例会 (6 月定例会) における主な議案等です

- 26 年度一般会計補正予算第 2 号 (緊急経済対策事業 5566 万円、マツクイムシ対策 3101 万円、笠利町ふれ愛の郷空調設備改修 2405 万円、末広・港土地区画整理事業での用地購入 1770 万円、その他臨時職員の人件費等) 合計 1 億 8632 万円の増額 ⇒ 結果、26 年度一般会計総額は 298 億 2832 万円
- ・緊急経済対策事業の主な内容は、浜里等 6 カ所の市営住宅、春日・佐大熊市営住宅の駐輪場、米飯給食センター、教職員住宅、タラソ奄美の竜宮の空調設備、大浜海浜公園第 2 駐車場向かいの法面、小俣町 I C T 人材育成センターの整備・改修等
- ・マツクイムシ対策事業は、市内 65 カ所にて危険木伐倒処理を実施
- ・東城小学校学童保育へ 219 万円の運営補助金を交付
- ・農業研修充実のため、(公財) 奄美市農業研究センターへ 1223 万円を交付
- ・魚食関連事業者へ 396 万円の 6 次産業化ネットワーク活動交付金を交付
- ・住用町の N P O 法人へ観光地ビジネス創出の総合支援事業補助金 145 万円を交付等
- 26 年度国民健康保険事業・介護保険事業等 4 特別会計の補正予算

- 少人数学級の推進などの定数改善と義務教育費国庫負担制度 2 分の 1 復元を図るための、2015 年度政府予算に係る請願書採択を求める請願 ⇒ 全会一致で採択
- 高齢者へのバス料金の助成制度創設と低床バス導入促進を求める請願 ⇒ 全会一致で採択
- 奄美大島への自衛隊基地建設中止を求める陳情 ⇒ 賛成少数で不採択
- 地方財政の充実・強化を求める意見書 ⇒ 全会一致で可決
- 奄美市への陸上自衛隊配備を求める意見書 ⇒ 賛成多数で可決
- 集団的自衛権行使を容認する解釈変更を行わないことを求める意見書 ⇒ 賛成少数で否決

2 本庁舎建設提言特別委員会について

民間委員を交えた基本構想策定委員会において基本理念・方針・機能がまとめられつつあることを確認し、規模についても検討が進められていることを理解しました。総務省の算定基準を参考にしつつ、市民アンケートで最も声の多い「駐車場の拡充」を実現できるようにしなければなりません。また議会機能の充実についても、今後議会内で意見集約が行われる予定です。

※ 「奄美・琉球」世界自然遺産登録推進特別委員会は、4～7月上旬までの期間、開催されませんでした。まずは今年度内の奄美群島国立公園化に向けて、情報収集に取り組んで参ります。

そうへいの 一般質問レポート

一般質問は、
議員が公の場で能動的に
政策を提言できる、
数少ない貴重な機会です！



前

前回の議論をさらに深めるために、今回の一

般質問でも奄美市の経済・産業・雇用の拡大・向上を念頭に置きながら、以下の3つのテーマについて採り上げました。

① 新規特産品開発支援

② クルーズ船の受け入れ体制構築

③ 商店街の再生

① では、地域の食材を生かした食品加工業をど

のように育成・発展させていくかについて議論。財政事情が厳しい本市においては鹿児島県の事業をもつと積極的に

活用すべきではないか、来年度から予定の農産物加工センター建設をどのように進めていくか、新規おみやげ品の開発を支援できないか等についてやりとりしました。行政内における農林業と水産業との「縦割りの壁」をどのように突破していくかが、成功への鍵になるのではないかと感じました。

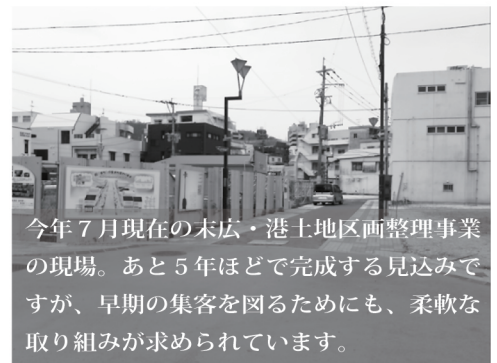
②

では、クルーズ船来航による経済効果を今後

も継続・増加させるために、実際の経済効果について各事業者へアンケートを行うなど詳細な把握が必要ではないか、ボランティアガイドをいかに育成していくか、名瀬市街地



クルーズ船来航時、国内外からの観光客で賑わう末広アーケード。世界自然遺産登録に向けて、今後も欧米やアジアなど世界中から観光客が増えていくと思われています。



今年7月現在の末広・港土地区画整理事業の現場。あと5年ほどで完成する見込みですが、早期の集客を図るためにも、柔軟な取り組みが求められています。

のまち歩きルートづくりをどのように進めていくか等について議論しました。行政が苦手な部分については民間に任せるとともに、観光に関わる各事業者の自主努力を促すような行政からの働きかけやコミュニケーションの必要性を提起しました。

③

では、末広商店街の再生の

ためには地域社会のニーズに合った新しい機能を付加する必要があるのではないかとという視点から、「買い物弱者」といわれる高齢者等に対応するサービスを行う事業者を支援できないか、また市が実施する「空き店舗対策事業」を地域の交流拠点としてのコミュニティカフェやサロンにも拡大適用してはどうか等の議論をしました。

若者や女性、高齢者など様々な主体が挑戦できる環境をつくるのが、商店街再生への道筋になるのではないかと考えます。

4月～7月上旬の主な活動

- 4/5 衆院補選対応 (金子万寿夫氏を支援、27日まで適宜)
- 7 市内小学校・中学校入学式
- 24 宇都隆史参議院議員を囲む会
- 29 龍郷町公民館講座合同開講式 (西郷塾～入門編～)
- 5/1 サン・プリンセス号初来航によりガイド対応 (6/2まで適宜)
- 12 議会運営委員会 (会期日程等について)
- 13～16 産業建設委員会での行政視察 (北海道札幌市・小樽市)
- 20 臨時議会 (教育委員会委員の任命等)、本庁舎建設提言特別委員会
- 21 地元の若手有志による勉強会 (奄団勉強会)
- 22 奄美群島市町村議会議員大会@宇検村

- 29 柿赤忌 (谷村唯一郎先生を偲ぶ会)
- 6/7 奄美市自治会連合会総会
- 10 議会運営委員会 (請願・陳情の取り扱い等について)
- 17 6月定例会開会 (市長の専決処分の承認、人事議案4件を可決)、全員協議会
- 18～20 一般質問 (19日の3番目に登壇)
- 21 自由民主党奄美支部総会
- 24 本会議 (総括質疑)、全協、議運
- 25 産業建設委員会審査
- 26 総務企画委員会審査 (委員外議員として参加)
- 7/1 バニラ・エア就航記念セレモニー
- 3 最終本会議 (補正予算等15議案を可決)
- 4 奄美エコマネー運営委員会総会

①北海道札幌市

「商店街再生事業」



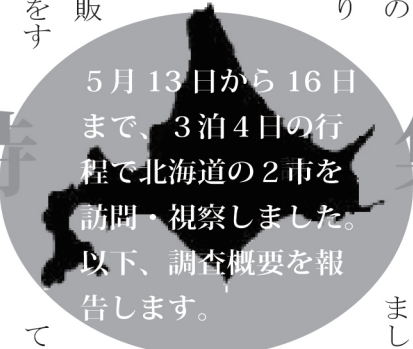
人口190万人超（国内4位）の大都市ですが、来年には減少に転じることが見込まれる札幌市において、郊外大規模店による住民の消費行動の変化や市内人口の偏在、後継者不足等の原因により昔ながらの商店街の維持・継続に大きな困難が生じています。その解決のための札幌市の取り組みを調査したところ、次のような事業がありました。



札幌市経済局産業振興部からのブリーフィング。商店街支援の施策をつぶさに伝えて頂きました。

- ・商店街にぎわいづくり事業…イベントへの補助
- ・商店街集客力アップ事業…独自商品券・広報誌等への補助
- ・商店街環境整備事業…カラー舗装・アーケード施設等への補助
- ・商店街計画づくり事業…コンサルと共同での活性化プランづくり等への補助
- ・安心できる商店街サポート事業…「買い物弱者」への宅配・配食・移動販売・買い物代行等をする商店街等への補助
- ・空き店舗活用事業…空き店舗を活用して交流拠点（コミュニティカフェ・サロン等）の新設や、小売業・飲食業等が新規出店する際の賃借料等の補助
- ・商学連携事業…商店街活性化に向けて、学生のアイ

特集



5月13日から16日まで、3泊4日の行程で北海道の2市を訪問・視察しました。以下、調査概要を報告します。

- ・ディアによるコンテストその後、空き店舗活用事業を導入して一定の成果を収めている麻生（あさぶ）商店街を視察し、子育てについて気軽に話し合える「多世代交流カフェ」や近隣の女子大食物栄養学科の学生が運営に参画するカフェ等を見ました。地域の社会的課題に伴うニーズを的確に把握する大事さとともに事業を牽引していく経営者のリーダーシップの重要性を感じました。

②北海道小樽市

「クルーズ船誘致事業」



人口12万人（道内7位）の港湾都市ですが、石炭需要の

- ・クルーズ船誘致…低下とともに過疎化が進み、この40年で3分の1が減少しました。現在は運河や倉庫群
- ・歓迎体制のあり方…歓迎・送別セレモニー、ふ頭での観光案内・物産販売
- ・ふ頭の受け入れ体制…10万トン以上のクルーズ船にも対応できるふ頭の整備



小樽市役所の前にて。この市庁舎は昭和8年建設の歴史的建造物で、まさに小樽市のシンボルの一つでした。本庁舎を建て替え予定の奄美市も、参考にすべき姿です。



小樽市産業港湾部の案内で、10万トン超のクルーズ船が受け入れ可能な勝納ふ頭を視察。普段は貨物用とのことですが、奄美市でも、この対応を真剣に考えねばなりません。

- ・クルーズ船誘致…船社・代理店等へのPR、小樽旅行プランの造成、環日本海連携
- ・その後、実際にふ頭を現場視察して説明を頂きました。小樽市の本格的な力の入れ具合を感じるとともに、海から見た街づくりを強く意識していることを実感しました。奄美市においても、この視点はますます必要になるのではないかと考えます。
- ・その後、実際にふ頭を現場視察して説明を頂きました。小樽市の本格的な力の入れ具合を感じるとともに、海から見た街づくりを強く意識していることを実感しました。奄美市においても、この視点はますます必要になるのではないかと考えます。
- ・クルーズ船誘致…船社・代理店等へのPR、小樽旅行プランの造成、環日本海連携
- ・その後、実際にふ頭を現場視察して説明を頂きました。小樽市の本格的な力の入れ具合を感じるとともに、海から見た街づくりを強く意識していることを実感しました。奄美市においても、この視点はますます必要になるのではないかと考えます。

コラム

自衛隊 配備・誘致 を どう考えるか

冒頭の挨拶でも触れましたが、このことはぜひとも市民の皆様お一人一人にご一考頂きたい、一緒に考えていきたいテーマです。

これまでわが国は「水と安全はタダ」といわれ、世界でもまれな平和状態を維持してきました。これは一面には、国防・安全保障を主に米国に依存してきたおかげであり、また他面には憲法9条を基軸として、過去の反省を肝に銘じて、平和国家をつくらうという国民の努力の賜物であったと思います。

しかしながら、日本を取り巻く国際情勢が大きく変化してきたことも事実です。経済力の増大や米国の相対的な影響力低下を背景に、中国の領土的野心が膨張し、日中中間線や尖閣諸島を巡り切迫した緊張状態が続いています。北朝鮮の核実験や数次にわたるミサイル発射については、当然ながら警戒を怠ることはできません。

その一方で、日本列島の3分の1の長さを占める南西諸島の防衛は、これまで余りにも手薄だったと感じます。ちなみに、陸上部隊の兵力で比較すると、自衛隊14万人、中国160万人、北朝鮮100万人、韓国52万人です。そして現在の奄美群島内では、笠利に航空自衛隊約30名、瀬戸内に海上自衛隊約10名、沖永良部島に航空自衛隊約170名。彼我のこの勢力差、そして奄美群島には陸上部隊が存

在しない中で、本来に将来もこの島々を守っていくのか？かつて「台風銀座」と呼ばれ、奄美豪雨災害以降も頻発している自然災害への初期対応を増強するためにも、陸上部隊を配備することが望ましいのではないかと、私は考えます。

自衛隊を配備することによるリスク(危険性)と、しないことによるリスクを、両方考えなければなりません。前者のリスクの代表は、配備することによって奄美が離島防衛の最前線となり、他国からの攻撃の対象になるのではないかとということ。後者のリスクの代表は、他国の軍隊や武装集団によって島々が占拠されるのではないかとということ。安全保障の要諦は最悪の事態に備えることですが、どちらのリスクが現実的に高いかということも合わせて考えれば、度重なる不審船の航行や拉致事件も指摘さ

れている現状からは、まずは後者のリスクに備える必要性が高いのではないかと思われます。もちろん、抑止力の増強がお互いの軍拡競争を招かないようにしなければなりませんし、そのためにも最大限の外交努力、対話と協調を探る取り組みが必要です。それを政治に求めつつ、これまで不十分だった自国の守りを固めることもすべきでしょう。

憲法を改正すべきか、集団的自衛権の行使を認めるべきかについても、国民が選んだ政治家が、または最終的には国民一人ひとりが決めることとなります。決定権者は私たち自身であるということをご理解頂いた上で、これからの奄美の防衛についても一緒に考えていきたいと思います。皆様からのご意見・ご感想をお待ちしております。



そうへいからの お知らせ

●「出前報告会」
を行います！

現在、定期報告会の開催予定はありませんが、ご要望頂ければ出張報告にうかがわせて頂きますので、よろしくお願ひいたします。



- 本チラシの「配布ボランティア」を募集しております！
- お困りごとや奄美市へのご要望等ありましたら、お気軽にお寄せください！
- しーまブログ、ツイッター、フェイスブックでも活動情報発信中です！

※安田そうへい連絡先：
奄美市名瀬古田町5-7
電話：54-7621 / FAX：54-7620
Eメール：sohei@mskj.or.jp